細江小学校　校長だより

和顔愛語「和やかな顔と思いやりの言葉」で人に接すること

令和8年1月14日

安心感のある学校だと思いました

今日は、榛原地区相談員訪問ということで、牧之原市、吉田町、川根本町で、心配なお子さんの見守りや支援をしていらっしゃる先生方に、細江小学校の様子を見ていただきました。参観していただいた後、感想を教えてくださったので、一部ですけど紹介します。

実際に見せていただいて、明るく元気な雰囲気で、笑顔がたくさんあり、安心して生活できている様子が伝わってきました。

子どもたちは、学校に来ることで、心が落ち着き、安心できる場所になっていると感じました。大変なことも多いと思いますが、みんなで乗り越えていってほしいと思います。

たつまきという、これまで経験したことのない災害の中で、学校がその経験を生かして取り組んでいることが伝わってきました。

子どもたちが、以前にも増してやさしくなっていると感じます。とても大変な出来事でしたが、これからに生かせる経験だと思います。

授業よりも、子どもたちの表情や関わりを見ていましたが、とてもあたたかい言葉で話しているのが印象的でした。批判ではなく、相手を思いやる言葉が自然に出ていました。

たつまきの時も、事務的な連絡だけでなく、校長先生の言葉があり、息子と一緒にそれを読んで話すことができました。停電の夜は、家族で話をしたり、ウノやトランプをしたりして過ごしました。

災害の経験を、子どもたちが無意識のうちに感じ取り、それが今のやさしさにつながっているのだと思いました。それが「スマイルハート」という言葉と結びついて、学校全体に広がっていると感じました。
これからも、ぜひこの学校らしさを大切にしていただきたいと思います。

災害という大きなマイナスの出来事が、子どもたちのやさしさや強さを育てていると感じました。

「学校があってよかった」と心から思いました。学校があるからこそ、子どもたちは安心して成長できているのだと思います。

外国にルーツのある子の表情を見ると、孤立しているという感じではなく、クラスの中に溶け込んでいる印象でした。「外国籍」というオーラではなく、ほかの子どもたちと同じ、普通の子どもたちという感じがしました。人数は多いですが、とても自然ですね。

学校の様子が以前より分かりにくくなり、少し遠く感じていましたが、校長先生が「学びポケット」でお便りを送ってくださるようになり、学校の様子が分かるようになって、安心して子どもを送り出せるようになりました。

細江小のもと校長先生や教務主任の先生、細江小の保護者の方、うちの息子の担任だった方もいらっしゃいました。みなさん、細江小のことをあたたかく受け止めてくださってうれしいなと思います。私は、とってもうれしい気持ちになりました。